

- 第1号(一九六三・二)横浜市の未来像
 第2号(一九六四・二)横浜市の行政水準
 第3号(一九六四・六)子供を大切にす市政
 第4号(一九六四・八)だれでも住みたくなる都市づくり
 第5号(一九六四・二)海外から見て横浜を考える
 第6号(一九六五・二)地方行政の改革と近代化
 第7号(一九六五・五)宅地開発の現状と対策
 第8号(一九六五・八)戦後20年―市行政の再検討
 第9号(一九六五・二)「横浜の都市づくり」に
 提案する
 第10号(一九六六・二)区役所問題
 第11号(一九六六・五)横浜文化論―新しい文化の創造は可能か
 第12号(一九六六・八)首都圏と横浜
 第13号(一九六七・二)新しい横浜の記録
 第14号(一九六七・六)大都市圏の問題
 第15号(一九六七・九)行政の再点検と提案
 第16号(一九六七・二)統一行政の再点検と提案
 第17号(一九六八・二)公害対策―横浜方式
 第18号(一九六八・八)二〇〇万都市
 第19号(一九六八・〇)郊外部開発の諸問題
 第20号(一九六八・三)転換期の福祉行政
 第21号(一九六九・三)市民の安全
 第22号(一九六九・八)都市と緑
 第23号(一九六九・二)都市化と老人問題
 第24号(一九七〇・一)基地と市民運動
 第25号(一九七〇・三)京浜工業地帯
 第26号(一九七〇・六)余暇とその環境
 第27号(一九七〇・二)都市廃棄物
 第28号(一九七一・三)六次事業の経過と今後の方向
 第29号(一九七一・三)新市民と自治
 第30号(一九七一・六)水資源と水行政
 第31号(一九七一・九)住宅問題の諸側面
 第32号(一九七一・二)自動車化と道路・交通問題
 第33号(一九七二・三)都市環境と生物指標
 第34号(一九七二・六)都市化と財政
 第35号(一九七二・九)住民と「知る権利」
 第36号(一九七二・三)住民の要求と行政の対応
 〈意識調査から〉
 第37号(一九七三・三)地方公務員と職業倫理
 第38号(一九七三・六)住工混合地域の環境整備
 ―「計画」の前提を考える
 第39号(一九七三・九)大都市における地域行政
 ―区役所のあり方を中心に
 第40号(一九七三・二)大地震の対策と不安
 第41号(一九七四・三)都市と精神の問題
 第42号(一九七四・六)都市エネルギーの諸問題
 第43号(一九七四・九)出稼ぎ労働の問題点
 第44号(一九七四・三)消費者と物価
 第45号(一九七五・三)「福祉」問題再考
 第46号(一九七五・六)都市と家族の問題
 第47号(一九七五・九)アーバンデザインの課題
 第48号(一九七五・三)地方財政危機をめぐって
 第49号(一九七六・三)区民生活と行政の対応
 ―緑区の調査事例を中心に
 第50号(一九七六・六)都市行政の主体性
 第51号(一九七六・九)都市のなかの川
 第52号(一九七六・三)都市と港湾
 第53号(一九七七・三)横浜の文化と行政
 第54号(一九七七・六)市民の医療と行政
 第55号(一九七七・九)都市における学校
 第56号(一九七七・三)低成長下横浜の行財政
 第57号(一九七八・三)地区計画と住民
 第58号(一九七八・六)都市における資料館
 第59号(一九七八・九)横浜の緑と保存
 第60号(一九七八・三)横浜の盛り場
 第61号(一九七九・三)地域施設の管理・運営
 第62号(一九七九・六)都市と子ども
 第63号(一九七九・九)横浜の地下
 第64号(一九七九・二)市民の食料と食生活
 第65号(一九八〇・三)横浜の国際性

第66号(一九八〇・六)歩行者空間

第67号(一九八〇・九)市民と健康

第68号(一九八〇・三)老人問題と福祉行政

第69号(一九八一・三)都市の自治

第70号(一九八一・六)都市住宅問題をめぐって

第71号(一九八一・九)共生の時代

第72号(一九八一・三)婦人問題

第73号(一九八二・三)アジアの都市と横浜

第74号(一九八二・六)横浜と農業

第75号(一九八二・九)横浜と工業

第76号(一九八二・三)都市と水環境

第77号(一九八三・三)職員の自主研究

第78号(一九八三・六)市政情報の整備と利用

第79号(一九八三・三)横浜市政と行政

第80号(一九八四・二)高齢社会の課題

第81号(一九八四・三)市民・地域・行政

第82号(一九八四・九)緑保存の方策

第83号(一九八四・二)横浜と商業

第84号(一九八五・二)福祉と民間活力

第85号(一九八五・三)区行政―あり方と個性ある地域づくりの試み

第86号(一九八五・三)都市とイベント

第87号(一九八五・三)横浜の産業政策―企業誘致活動を中心に

第88号(一九八六・二)市民と図書館

第89号(一九八六・三)国際化時代の市民と行政

第90号(一九八六・九)まちの活力と行政

第91号(一九八六・二)家族機能と自治体行政

第92号(一九八七・一)横浜の公共交通

第93号(一九八七・三)地域情報・行政情報

―横浜の広報力を考える

第94号(一九八七・六)博物館を考える

●第90号(一九八六年九月)

特集・まちの活力と行政

「まち1986」ダイジェスト―地域社会研究会作業部会
座談会・地域から学ぶ― 渡辺光次・塩野孝志

「まち1986」を読んで 村田和義・松井正幸・大徳 努・加藤勝彦

「文化」で自治会の活性化を 松井佑子
「まち1986」を読んで 池下高志
「まち86」を読んで 木下好夫

魅力ある西谷に 石崎和彦
我が町・希望が丘が本になった 川崎登美子
今、行政に求められているもの 中山文子

千秀地区に住んで思うこと 曾根純雄
仕事を通して考える 小巻三枝子
別所町友会パート2 魚本一司

港南台ウォッチング Part 2 塩野孝志
西谷町は今 村田和義
その後の千秀地区 松井正幸

●第91号(一九八六年十一月)
特集・家族機能と自治体行政 大徳 努
家族問題と自治体行政 吉仲一也
家族問題研究会の概要 平野敏政
家族問題研究会 家族問題研究会

相談活動と連携 相談活動と連携
①老人相談と老人ケア―山本文子・丹野利子・岩崎晴子
②保健室における相談活動と連携―下田久子・川島令子
③児童相談所の役割と課題 山口かおる

●第92号(一九八七年一月)
特集・横浜の公共交通 宮永啓子
大都市における公共交通 鈴木 隆
横浜の交通機能の現状と課題 野川久和・松田正敏
民営鉄道の経営と課題 鈴木 隆
市営高速鉄道の課題 宮永啓子

横浜の公共交通システム 相原幸雄・関善一郎・花井昭博
横浜の民営バス 中川博之・和田 博
横浜市営バスの現状 寺坂伊佐夫
横浜市総合交通体系の確立にむけて 土屋俊男

●第93号(一九八七年三月)
特集・地域情報・行政情報 横濱の広報力を考える
市民同士の情報交流と行政の役割 岩田照丈

地域への向かう点から面へ 菊池汎子
①子供の養育と社会教育の課題 角口秀子
②母親のネットワーク作りへ向けて 神山満子
③母子保健の新たな展開 高野静子
④ボケ相談から地域へ 高野静子

①在宅福祉サービスの新たな展開 鎌田宣子
②緩衝機能を持つ施設 野川久和・松田正敏
③多様な保育ニーズと保育行政についての一考察 鈴木 隆

新書紹介／地域福祉の思想と実践 宮永啓子
新書紹介／リハビリの友へ 平塚由美

NTTの総合広報戦略 小林洋子
新書紹介／リハビリの友へ 平塚由美

地域の情報交流を進めるために―丸山 尚
地域の情報交流

①満一〇年を迎えた地域紙「はまかせ」 飯田重夫
②地域新聞と住民とのかかわり 若尾忠政

私たちの考える情報ネットワーク―三宅喜代子
私たちが考える情報ネットワーク 砂川忠雄・戸口和夫
広聴・広報の今日的対応PR 岡本孝夫
総合PR戦略への誘い 仲俣正之・河村俊之・小沢 朗

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

新書紹介／リハビリの友へ 小林洋子
NTTの総合広報戦略 平塚由美

昭和62年(1987年) 6月30日

編集・発行——横浜市企画財政局都市科学研究室

横浜市中区港町1-1

電話——045・671-2029 郵便番号——231

印刷——内村印刷株式会社

横浜市中区末吉町1-12

●横浜市のデータ

人口——3,094,898人<62・6・1>

世帯数——1,082,945<62・6・1>

面積——430.80km²<62・6・1>

横浜こども科学館入場者数——208,413人<61年度>

横浜開港資料館入場者数——85,463人<61年度>

横浜人形の家入場者数——701,440人<61年度>

横浜市三殿台考古館入場者数——34,884人<61年度>

野毛山動物園(本園)入場者数——822,755人<61年度>